

K-620

山形県長井市埋蔵文化財調査報告書第9集

白山森遺跡

緊急発掘調査報告書

1993年

長井市教育委員会

例　　言

1 本報告書は、長井市教育委員会が平成4年度に実施した長井市営白山森スキー場簡易リフト設置工事に係る白山森遺跡の緊急発掘調査報告書である。

2 調査期間は平成4年10月10から31日までである。

3 調査体制は次のとおりである。

調査主任 佐藤正四郎（山形県立米沢女子短大講師）

調査員 岩崎 義信（長井市教育委員会生涯教育課文化係長）

調査補助員 高橋しのぶ（長井市教育委員会生涯教育課文化係主事）

調査参加者 安部七郎、安部長作、安部 仁、菅野弥兵衛、工藤政一、佐藤虎雄、鈴木代次郎、蒲生正男、蒲生勢次

事務局長 竹田 欣助（長井市教育委員会生涯教育課長）

事務局次長 沼澤久四郎（長井市教育委員会生涯教育課次長）

事務局員 岩崎義信、高橋しのぶ

4 本調査にあたっては、次の方々にご指導・ご協力をいただきました。ここに記して感謝申し上げます。

山形県教育庁文化課、渋谷敏己氏、白山森遺跡保存会、川原沢地区、長井市スキー連盟、白山森スキー場運営委員会、備安森鐵工所、長井市文化財調査会、長井市教育委員会体育課

5 本書の編集と執筆は岩崎義信が担当し、佐藤正四郎が総括した。

目 次

I 調査に至る経過	1
II 遺跡の立地と環境	2
III 調査の概要	3
IV 遺跡の概要	4
V まとめ	7

挿図目次

第1図 遺跡位置図	2
第2図 遺跡概要図	4
第3図 土層セクション図	6

図版目次

図版1 白山森遺跡遠景	1
図版2 遺跡の概要	3
図版3 調査の概要	5
図版4 四耳壺（平成元年出土 中世陶器）	7

I 調査に至る経過

白山森遺跡が発見されてから今日に至るまでの経過は、次のとおりである。

- 昭和54年 山形県宮野川地区かんがい排水事業で、採土地に決まっていた白山森から中世の館跡と積石状の塚が発見された。
- 昭和55年 関係者のご理解とご協力により、白山森を遺跡公園ならびにスキー場用地として保存活用することに決まる。
- 昭和56年 長井市指定文化財（史跡の部）に指定される。
- 昭和57年 山頂部の分布調査を行い、概要図を作成する。
- 平成元年 史跡公園としての整備作業中に2箇所の塚から壺を発見した。

この度、スキー場利用拡大のため現在使用しているロープ塔を簡易リフトに付け替え、山頂部に延長する計画が打ち出された。白山森遺跡の今日に至る経過や遺跡の重要性等を充分にふまえながら、現状保存を基にした施工方法などの検討を含めた調整を関係者と重ねてきた結果、遺跡におよぼす影響が最小限度の工法で簡易リフトを設置することに決まった。この調査はこの度の工事で削平される箇所を記録で保存するために実施した緊急発堀調査である。



図版1 白山森遺跡遠景

II 遺跡の立地と環境

白山森遺跡は朝日山系のふもと、通称「西山」と呼ばれる山麓から東に向けて張り出した山頂に位置する。西山山ろく一帯は遺跡の宝庫として知られ、現在でも約50箇所の遺跡を数える。遺跡のほとんどは縄文時代のもので、山麓から張り出した台地上に散在しており長者屋敷遺跡を中心とした遺跡公園づくりがすすめられている。

白山森遺跡と同じ時代の中世の館跡は、北に戸根林館、南に小屋館、南鴨石館、小豆澤館等があり、ほぼ南北線上にならんだ状態で見ることができる。これらの遺跡はいずれも小高い山の頂にあり、眺望がきくという点で共通性が見られる。特にここ白山森山頂からは、北は荒砥・鮎貝、東は長井、南は飯豊・川西を見渡すことができ、天候の良い時は米沢市役所も視界に入ってくるほどである。

1 白山森遺跡	2 片倉遺跡	3 西寺山遺跡	4 中里遺跡
5 中里B遺跡	6 長者屋敷遺跡	7 長者原B遺跡	8 畑ヶ沢遺跡
9 二階櫓遺跡	10 長者原遺跡	11 松山遺跡	12 道合遺跡
13 神明森遺跡	14 黒附遺跡	15 小峯遺跡	16 大林遺跡



第1図 遺跡位置図

III 調査の概要

この度の発掘調査は、「調査の経過」でも示したように市の指定史跡に簡易リフト設置工事が計画されたことから、遺跡保護の立場をとり最小限度の工法で工事設計をお願いしたため、調査面積は30平方メートルにも満たない面積である。

調査箇所は、山頂から①調査区 2×2 メートル、②調査区 2×2 メートル、③調査区 3.5×5 メートルの3箇所を設定した。白山森遺跡のような館跡は山頂に築かれていること、また廃棄されてから500年にも満たないため、現在の状況から容易に当時の館のすがたを窺うことができる。そのため館跡を構成している空堀や土壘の形状や断面を測量や写真で記録保存にあたることとした。工事にかかる箇所は表面の土を $5 \sim 10$ センチメートル掘り下げ当時の生活面をあらわし、写真や図面で記録保存にあたった。

土木工事は多量の土砂の掘削がともなうことから、当時の人々も白山森館を築くにあたっては大規模な土木工事を必要としたことでしょう。そこで館を築くにあたりどれだけの土を必要としたかを見るために、土壘の一部を深掘りし断面を観察し土の盛られた形跡も調査し記録にとどめることとした。



空堀と帶廓（北から）



空堀と土壘（北東から）



積石の堀（北東から）

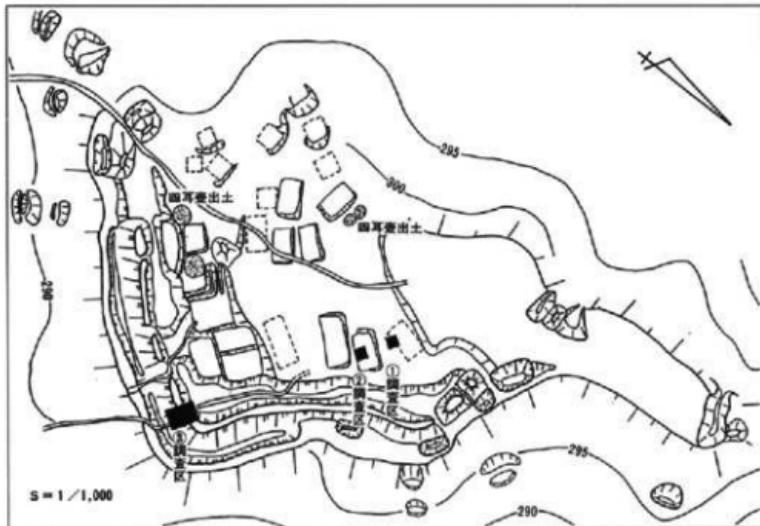
図版2 遺跡の概要

IV 遺跡の概要

白山森遺跡は標高303メートルを測り、南・東側は緩斜面になっているが北・西側は急斜面となっている。山頂部の東・北斜面を中心に土壘と空堀が「く」の字形に巡っており、高いところでは4メートルの高低差をもち、幅は3~6メートルを測る。北側は敵堀が築かれ土壘との高低差は4メートルに達する。また、傾斜が緩い東南斜面は方形に区画された平場が段々畑のように連なっている。

③調査区で土壘を深掘りしたところ盛土の跡が見られ、現在の土壘の下から一時期古い土壘と空堀が新たに確認された。すなわち、土層断面で見る⑦~⑧・⑪~⑫は、ほとんどがかたくしまった土質であるのに対し、その上の①~⑥・⑨~⑩の土層はしまりが弱くふかふかした感じの土質が堆積している。(第3図)

平場や土壘を築くにあたっては大規模な土木工事を必要としたと考えられる。また、本遺跡には径約2~3メートルの積石状の塚が4基残っている。平成元年に史跡整備のため塚を調査したところ中世陶器(四耳壺)2個体が出土したことから、塚跡の他にも墳墓や経塚として使用された可能性もある。



第2図 調査概要図

調査の概要



①・②調査区



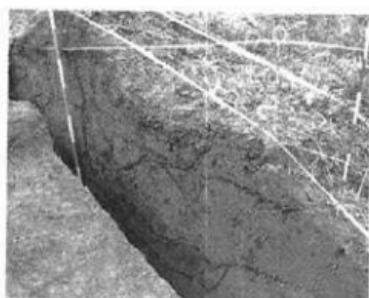
③調査区



①調査区 土層断面



③調査区 土層断面



③調査区 土層断面



③調査区 完掘状況

図版3 調査の概要

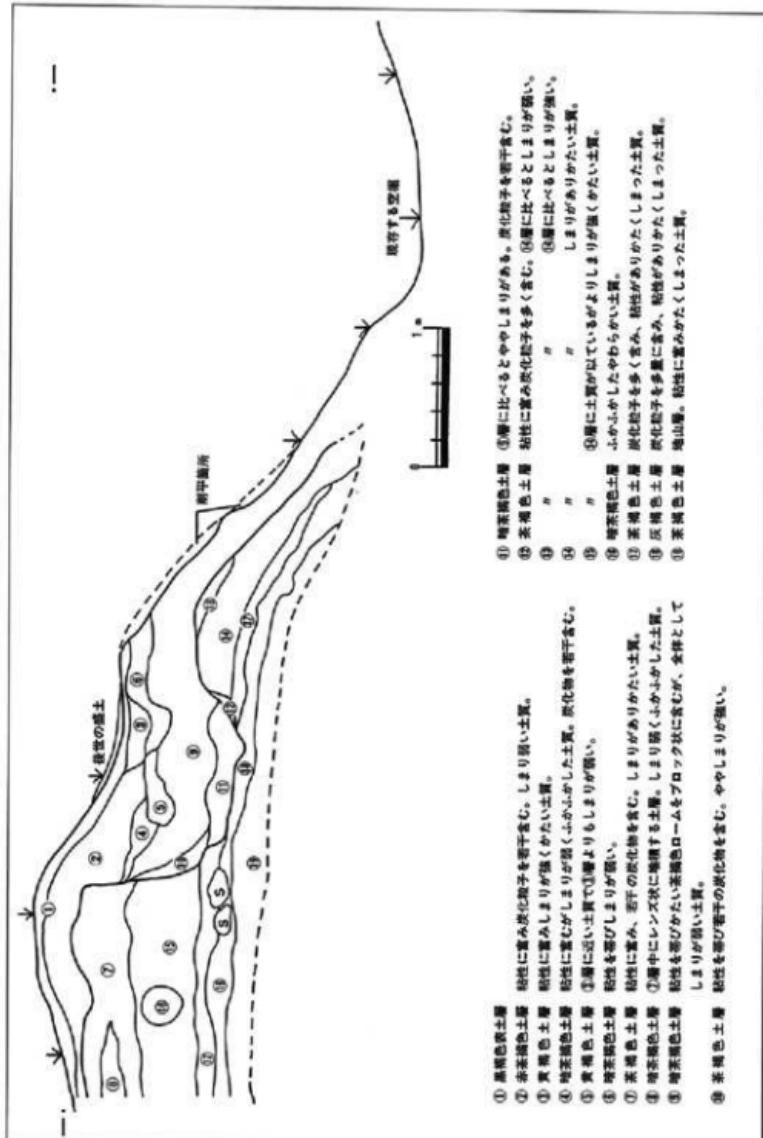


図3 土層セクション

V 調査のまとめ

今回の調査は、簡易リフト設置工事に伴う記録保存のための緊急発掘調査である。調査面積は1,500平方メートル、精査面積は26平方メートルを対象とした。これまでの調査で明らかになったことをまとめると次のようになる。

- (1) 白山森遺跡は空堀と土塁に囲まれた中世（戦国時代）の館跡であり、土塁の内側に沿って帯堀が巡り、南東側の緩斜面には方形の平場が19箇所見られる。北側の土塁の下には戦国時代の関東地方で見られる畝堀が築かれ、当地方との交流が窺われる。
- (2) 調査区の土塁断面から、現在見られる土塁と空堀よりも一時期古い土塁と空堀が観察された。限られた調査面積からの推測ではあるが、現存する白山森館は旧い館の上に規模を大きくして築かれた可能性がある。
- (3) 塚から出土した中世陶器は四耳壺とよばれ、納骨や経筒に用いたもので12世紀の年代が与えられている。

この他にも平地の館との関係、館跡と塚の関係等これからの検討課題が残っている。
最後になりましたが短い調査期間にもかかわらず、調査を完了できたことは関係期間、関係各位の深いご理解とご協力によるものであり、ここに記して感謝を申し上げます。



図版4 四耳壺(平成元年出土 中世陶器)

山形県長井市埋蔵文化財調査報告書第9集

白山森遺跡

緊急発掘調査報告書

平成5年3月31日 発行

発行 山形県長井市教育委員会

山形県長井市ままの上5番1号

TEL 0238(84)2111㈹

印刷 楽サンノー企画印刷
